

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

中学校 第1学年 「数学（大日本図書）」

(★) は移行内容

98時間（70%）

週	指導事項	単元名	小単元名	時間数	留意点
1 2 3 4 5	A(1) ア(ア)(イ) (ウ) イ(ア)(イ)	1. 正の数、負の数	1-①～④正の数と負の数	3	・具体的な事象を考察し、正負の数を用いて反対の方向や性質を表せることを扱う。
			2-①～③加法	3	・符号が同じ2数の加法を基に、符号が異なる場合の計算の仕方を考え、説明する活動を行う。
			2-④⑤減法	2	・加法を基に減法の計算の方法を扱う。
			2-⑥⑦加法と減法の混じった計算	2	
			練習		・1-①～⑦の練習問題として、授業や家庭学習で利用する。
			3-①～④乗法	3	・加法の学習を基に、乗法の計算の仕方を考察する。
			3-⑤⑥除法	2	・除法は乗法の逆の演算であることを用いて、除法の計算方法を端的に捉える。
			3-⑦四則の混じった計算	1	・小学校で学習した四則計算の意味を基に、計算の手順を扱う。
			3-⑧数の範囲と四則	1	
			練習		・3-①～⑧の練習問題として、授業や家庭学習で利用する。
			4-①正負の数の利用	1	・負の数を用いることで、増減を明確に示し、効率よく平均を求められることを扱う。
			素因数分解 (★)	2	・自然数を素数の積で表すことにより、算数で学習した整数の性質について捉え直す。
			章の問題、単元末テスト等	1	
			2 1 時間		
6 7 8	A(2) ア(ア)(イ) (ウ)(エ) イ(ア)	2. 文字と式	1-①②文字を使った式	2	
			1-③④式を書くときの約束	2	
			1-⑤⑥式による数量の表し方、意味	2	
			1-⑦式の値	1	・文字に具体的な数を代入することで、文字式の一般性を扱い、文字への抵抗感を和らげる。
			練習		・1-①～⑦の練習問題として、授業や家庭学習で利用する。
			2-①～④1次式の計算	4	・具体的な場面と関連づけながら、文字式の計算の方法を扱う。
			練習		
			3-①文字を使った式の利用	1	
			4-①関係を表す式	1	・等式と不等式を扱い、等号が計算の過程だけでなく、等しい関係を表すことを扱う。
			章の問題、単元末テスト等	1	
1 4 時間					
9 10	A(3) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	3. 1次方程式	1-①方程式とその解	1	
			1-②等式の性質	1	・等式の性質を基に、もとの方程式と同値な方程式を段階的に導いて解を求めることを扱う。
			2-①～④1次方程式の解き方	4	
			2-⑤比例式	1	・一次方程式を活用する場面として簡単な比例式を作り、解くことを扱う。
			練習		・2-①～⑤の練習問題として、授業や家庭学習で利用する。
			3-①～③1次方程式の利用	3	
1 1 時間					
章の問題、単元末テスト等			1		
11 12 13	C(1) ア(ア)(イ) (ウ)(エ) イ(ア)(イ)	4. 量の変化と比例、反比例	1-①②量の変化	3	・表、式、グラフを手立てに関数関係の変化や対応を調べる。
			2-①②比例		
			2-③～⑥比例のグラフのかき方	4	
			2-⑦比例の式の求め方	1	・表、式、グラフを関連づけながら比例定数aの意味を扱う。
			3-①反比例	1	・比例と比較しながら反比例の変化や対応の特徴、式を扱う。
			3-②③反比例のグラフ	2	・電卓を利用して計算の能率化を図るなど、グラフをかく活動を工夫して行う。
			3-④反比例の式の求め方	1	・比例と比較しながら反比例の式を扱う。
			練習		・家庭学習を利用する。
			4-①②関数の利用	2	
			1 4 時間		
章の問題、単元末テスト等			1		
14 15	B(1) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (ウ)	5. 平面の図形	1-①～④平面図形とその調べ方	3	
			2-①～③図形の移動	3	・教科書や学習プリントを活用し、図形をかいたり調べたりする活動を工夫する。
			練習		・2-②③の練習問題として、授業や家庭学習で取り組む。

16			3-①～③図形と作図	3	・(P.160)直線上の1点を通る垂線の作図方法を見だし、作図できる理由を説明する活動を行う。
			3-④いろいろな作図	1	・(P.182)垂線の作図方法を見だし、作図できる理由を説明する活動を行う。
			練習		・3-②～④の練習問題として、授業や家庭学習で利用する。
			4-①移動と作図の利用	1	
1 3時間			章の問題、単元末テスト等	1	
17	B(2) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	6. 空間の図形	1-①②いろいろな立体、④特別な多面体	2	・1-④正多面体を合わせて扱う。
			1-③角すい、円すいの展開図	1	・展開図をかく活動は家庭学習を利用する。
			1-④特別な多面体		・1-①(P.195)多面体の後に合わせて扱う。
			1-⑤立体の投影	1	・投影図と見取図を関連付けながら空間図形を平面上に表現する活動を行う。
			1-⑥動かしてできる立体	1	
			練習		・家庭学習を利用する。
			2-①～③空間にある図形	3	・直線や平面の位置関係を捉える観察や操作、実験などの活動を扱う。
			3-①②立体の体積	2	・柱体と錐体を関連づけながら体積を扱う。
			3-③～⑤立体の表面積	3	
			3-⑥球	1	・柱体と錐体の体積の関係と関連づけながら球の体積を扱う。
			練習		・家庭学習を利用する。
			4-①図形の性質の利用	1	・具体的な事象の中で図形の性質を活用する。
1 6時間			章の問題、単元末テスト等	1	
20	D(1) ア(ア)(イ) イ(ア) D(2) ア(ア) イ(ア) 小6年D(1) ア(ア) イ(ア)	7. 資料の整理と活用	1-①近似値と有効数字(★)	0	・3年生へ移行。
			1-②～④度数分布、ヒストグラム	2	
			累積度数と累積相対度数(★)	1	・累積度数の必要性和意味を扱う。
			1-⑤資料のちらばり	2	・1-⑤の内容は、1-⑥(P.249)にて用語「範囲」を扱う。
			1-⑥⑦資料の代表値(★)		・量的データの分布の中心や散らばりを捉え、問題の結論を判断することを扱う。
			2-①資料の活用	1	※時間数の精選方法参照。
			3-①②データと確率(★)	2	・多数回試行の確率を扱い、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、表現する。
9時間			章の問題、単元末テスト等	1	
21					

※時間数の精選方法(例)

○授業中の問題を精選する。

- ・生徒の実態に応じて授業中に扱う教科書の練習問題を精選し、残りは家庭学習の課題にするなど、単元における学習の工夫を図ります。
- ・例えば、定着度が低い分数の計算は授業中に扱い、整数の問題は家庭学習を利用することが考えられます。家庭学習部分につまずきが見られた生徒に対しては、解法やポイントをまとめたプリントを配布する、小単元の末に余剰時数を使って補充の時間を設定する、校内で連携した個別支援を実施するなどの対応をとることが考えられます。

○指導内容を基に、扱う活動や解法を精選する。

- ・複数の解法がある問題については、本時のねらいの達成に必要な解法を精選して扱うことが大切です。
- ・例えば、1次方程式の利用では、方程式を解く場面で複数の解き方があっても1つのみ扱ったり、板書のみ示したりして、解の吟味に時間をかけることが考えられます。
- ・逆に、例えば、P.252ヒストグラムや他のデータを活用して集団の傾向を読み取る部分では、多様な考えを扱いながら自他の意見を批判的に考察することで、よりよい判断をしようとする態度を養います。

○指導と評価の一体化を重視した継続的な指導を行う。

- ・数学は既習を活用しながら学習を進めるため、学習内容を復習することができます。授業中の問題練習量が不足する分、ノート指導の充実を通じて、どこで学習したのかを明確に示し、学び直しの機会を意図的に設定することが大切です。
- ・限られた時間の中で生徒の学習状況を適切に見取り、指導と評価の一体化が図られた授業を通じて基礎基本の定着を図ります。

●平成29年度告示の指導要領解説数学編を基に、資料を作成しています。